

## 発刊のことば

南極地域観測統合推進本部長

松 永 東

国際地球観測年における南極地域観測にわが国が参加を正式に決定したのは、昭和 30 年 11 月 4 日でありました。

しかしながら、わが国から遠く南極地域へ行動したのは、明治 43 年から 45 年にわたつて白瀬中尉をはじめとする南極探検隊がおこなつたものだけでありまして、今回のように国際協力のもとに行われる大規模な事業に、国として観測隊や船舶を送つて、南極地域で行動することは、はじめてであります。しかもわが国の観測隊が基地を建設して観測の諸業務にあたる地域は、南極地域のうちでも従来どの国の遠征隊をも寄せ付けなかつたところでありまして。また、わが国からその地域に到達するまでには、酷暑の赤道を越え、暴風圏とたたかい、氷海を突破し、実に 11,000 哩の航海を経なければならぬのであります。この労苦はまことに大きなものであります。さらにその間、各種の船上観測をおこない、また極地到着後は、きびしい自然的条件のもとに器材の氷上輸送、基地の建設、各種の観測等困難な諸作業にあたらなければならないのであります。

先般実施した南極地域予備観測において、わが南極地域観測隊は、観測船宗谷ならびに随伴船海鷹丸とともに、よくこの困難にたえ、文字どおり懸命の努力をかさね、遂に南極大陸の一角オングル島に基地を建設し、11 名の越冬隊を残留せしめ、日本から南極地域にいたる間の各種の船上観測と、リュツオホルム湾および南極大陸における各種の観測調査にも成功し、すでに実施の段階に入つた本観測の基礎を固めることができたのであります。

このようにして得られた各種の資料は、国際地球観測年の観測資料として、人類文化の発展のため、まことに貴重なものであるといわなければなりません。

よつて、ここにそれらの資料を収集、分析、整理するとともに、白瀬隊その他諸外国の観測隊によつて得られた資料をもできるだけとりまとめ、このたび文部省において「南極資料」として刊行することにいたしました。この「南極資料」は、今後本観測の進展にともない、それによつて得られる資料も逐次加えていくものでありまして、いわば国際地球観測年事業の一環としておこなわれる南極地域観測の成果を、一括集約したものにいたしたいと存するのであります。

この資料がひろく内外のかたがたに利用され、文化の向上発展に資せられることを念願して、発刊のことばといたします。

昭和 32 年 12 月